

■ 檜葉町でモニタリングを実施しました

10月14日～15日、福島原発行動隊のメンバー5人が福島県檜葉町の個人住宅でモニタリング作業を行いました。この作業は、10月1日に福島原発行動隊が檜葉町と交わした覚書に基づくものです。

福島県檜葉町は、東京電力の福島第二原発が立地する町。福島第一原発の事故後は町のほとんどが20キロ圏の警戒区域に指定されていましたが、2012年8月に避難指示解除準備区域となりました。町内は2年半もの間、人が居住していない状態が続いていたため、どこも雑草が生い茂っている状態です。現在、町内では除染作業が進められています。



行動隊が檜葉町と交わした覚書は、住民の希望に応じて家屋内外のモニタリング、マッピング、ホットスポットの有無の確認などの業務を行うというものです。町役場では早速ウェブサイトにお知らせを掲載するとともに、案内ビラを作成して町民に配布しました。これまでにすでに9件の依頼が来ています。

今回の作業はその第一回目で、5人の隊員が14日と15日の両日、個人宅3軒のモニタリング作業を行いました。

作業にあたっては、屋内では各部屋の中央と四隅および人の動線上に番号札を置き、番号順に床上1cmと1mでの線量率を計測しました。屋外では家屋の外周に沿って、雨樋の落ち口



よび人の動線上に番号札を置き、番号順に床上1cmと1mでの線量率を計測しました。屋外では家屋の外周に沿って、雨樋の落ち口

■ メールアドレスをお知らせください

現在、SVCF通信は、メールアドレスをお届けいただいている方には郵便かFaxでお送りしています。しかしそのための通信費と人手が膨大にかかることから、できるだけメール送信に切り替えたいと事務局では考えています。

現在、郵便かFaxで通信を受け取られている方でメールアドレスをお持ちの方はご登録いただければ幸いです。なお携帯アドレスの場合でも、スマホなど添付ファイルを読むことができる機器であれば構いません。どうぞよろしくお祈いします。

を含め、2m程度の間隔で地上1cmと1mの高さで測定しました。

いずれのポイントでも、1分・30秒・30秒の間隔で計3回の計測を行うのが原則です。地方の標準的な住宅の場合、測定ポイントは1棟で50～70カ所程度になり、一回の計測には通常3時間程度の時間がかかります。

今後も計測依頼が続くと予想されます。モニタリング未経験者の作業参加を歓迎します。依頼がある度にウェブなどで公募しますのでぜひご応募ください。



測定ポイントとなる 地上1cmと1mで計測 屋外でも同様に計測場所に番号札を配置

■ 皆様からのご意見・ご提言

● 批判するだけではなく

最近になり、福島第一原発現場の技術者、技能者の不足が報じられています。東電に対し不満や批判のあるのはやむを得ないこととは思いますが、これが現場で働く方々のモチベーションを相当程度に下げていることは否めません。東電に対し馬鹿だと言ったところで、問題が解決するわけではなく、現場で働く方々に対し、感謝の気持ちを表すことも大切だと思います。

現場は、やの字やピンハネなどきれいごとでは済まない状況もあるとは想定されますが、文句を言うばかりでは廃炉が遅れ、しっぺ返しを喰らうだけです。現実にもそのような状況になっていると考えます。1Fでも働いたことのある技術者のはしくれとして、最近思うところで。(埼玉県 名須川泰策)

● 今こそ行動隊の出番

事故発生から既に2年半を過ぎていますが、解決というか、封じ込めも一向に進んでいないようで、憂慮してい

ます。最近汚染水の漏れが報道されていますが、基本がおろそかになっていることが最大の問題だと思いますが、それ以上に工事担当者の技術力の低下にあるのではないかと心配しています。

小生が聞いているのでも、東京電力そのものをはじめ、大成建設、日立等の熟練の技術者が放射能問題に関連して退職しているという現実です。さらに、その手足となっていた下請けの作業員も、優秀な人材から脱落しているようです。一つには、放射能の許容量を超えて作業できなくなっていることでもあります。多くの作業員が現在の放射能の管理下での作業に不安を持っていることに起因するのではないかと思います。

貴隊の初期目的は当面の事故対応ということだったとは思いますが、今こそ貴隊の出番ではないかと思えます。大変なこととは思いますが、この危機打開のため一層のご盡力を賜りますようお願い申し上げます。(東京都 市川新)

■汚染水処理について東電への意見・要望

高津戸厚（賛助会員）

いつも気持ちのこもったメールを送付していただき、ありがとうございます。早速ですが、「私達としては今何をなすべきか」について述べさせていただきます。SVCFの良さは様々な分野での専門的かつ幅広い知識をもって活動してきた方々が参加している団体であるので、経験的知識・技術等を活かした活動をしたら如何でしょうか。具体的には原発ウォッチャーチームを更に強化し、東電に意見要望、質問、アドバイス等を行っていく。また理事長代行が行おうとしている研修会をどんどん開催して、放射性物質に対する知識を広める活動をしていくべきだと思います。以下に私が東電に送信した資料を添付します。SVCF活動に役に立つ内容がありましたらどんどん使ってください。

2013年6月12日に東電へ意見・要望を出した者です。本日の新聞に掲載されている記事（タンクからの高濃度汚染水漏れ）に関し、老婆心ながらまた意見を述べさせていただきます、何かのご参考にしていただきたいと思います。

私の経験では公害防止対策では《臭いものは元から絶たねばダメ》ということで、私は仕事をし、成果をあげてきました。今回の汚染水の場合、臭い元はメルトダウンしたウラン燃料ということになるわけですが、解決するには相当な年数がかかると予想されています。その間、汚染水は発生し続けるものと考えられます。そこで、将来、汚染水をどのように（自然界への放出または管理保管）するので、処理量、処理レベル、処理方法、処理設備等が違ってくるので、早めに処理の方向性を決める必要があると思います。また、高濃度廃棄物をどこへ処分（隔離保管）するのも、早めに決めるべきだと思います。私は福島第一原発敷地内を最終処分場にするべきであり、早急に処分施設・研究開発等を進めるべきだと思います。

●参考意見 その1

東電はタンクから漏れた汚染水を回収（土壌回収）する計画ですが、私は地中に吸着剤を注入し固定するか、自然界に助けてもらうことを考えます（土壌吸着固定・地下水希釈）。

●参考意見 その2

東電は汚染水をタンクに毎日400トン貯めているが、私は、素人考えですが、施設に入ってきた地下水を抜かないで溜めれば、地下水はある深さで止まるのではないかと考えます。

●参考意見 その3

東電はさらに放射性廃棄物廃水の処理に携わった企業現場退職者等が持つ技術ノウハウ・意見を集めると共に、そのことが理解できる人材を養成すべきであると思います。

* * *

福島第一原発の汚染水の処理について

私は民間の原子力関連会社で放射性廃液処理の技術者として勤務し、四年前に定年退職した者です。昨今のテレビニュースを見ていて、福島第一原発の汚染水の処理は行きづまっているように思われる。そこで、私の提案をさせていただきます、この問題のすばやい打開策の一つになればと考えています。

●提案：福島第一原発で発生している汚染水は処理せずに隔離・保管する。

- 理由：汚染水の処理というのは、汚染水を無害なものにするのではなく、実際は汚染水中の放射性物質を濃縮し、分離・保管することなのです。現在、国の研究機関等で汚染水の処理方法の開発・検討を行っているが、私の経験から、汚染水の処理は考えずに、いかに隔離・保管するかを検討すべきであると考えます。汚染水の処理をしない・できない理由を述べます。技術面では六十数種類の放射性核種を処理する方法は現在のところなく、開発が必要。汚染水のあるレベルまで下げるにはかなりの処理回数が必要であり、処理で発生する二次廃棄物の量は汚染水と同量かそれ以上になる可能性がある。二次廃棄物は線量が高く、処理・処分作業に被ばく対策・設備等が必要。
- 提案：汚染水の隔離・保管は、寒冷地に埼玉県の下神殿のような施設を設け、汚染水を凍土のように凍結して永久保存する。

* * *

ご丁寧な返事をいただき、ありがとうございます。貴社の全社一丸となって取り組まれている様子がよく分かりました。現場の方々は、こんな短期間によく、まあ、これだけのことをしたなと感心すると共に微力ながら何か応援したい気持ちになりました。資料を見せていただき、私の経験（放射性廃水処理プラントの開発・導入等）から、処理システムを構築するにあたり苦勞するであろうと考えられることを老婆心ながら記述いたしますので、何かのご参考にしてください。

既にご存じだと思いますが、水処理というのは非常に難しい。水処理施設を作ることではできるが運転はできない。なぜかというとならぬ水質というのは、それぞれの現場で全部違うわけで、処理設備をどういう条件で動かすか、濃度・pH・処理剤・不純物の影響等は現場の廃水で試験・実験（テスト）しないと分からないからです。

ALPSの処理済み水を将来どのように（自然界へ放出または管理保管）するので、処理量、処理レベル、処理方法、処理設備等が違ってくるので、早めに処理の方向性を出す必要があると思います。処理済み水を自然界へ放出するには全α・全β濃度制限・測定で更なる処理設備・測定方法の検討が必要になると考えられます。（余談ですが、現在困っている地下水を希釈水として利用しては如何ですか。）処理済み水を保管管理するのであれば、現在の処理システムの見直し及び管理保管の方法を早急に決める必要があると考えます。

凝集沈殿除染装置、多核種除去設備から発生する高レベル放射性沈殿物・スリラーの処理・詰込み作業及び設備メンテナンスでの被ばく防止策並びに管理保管方法はどうか、検討が必要と考えます。

セシウム吸着装置のベッセル、凝集沈殿除染装置の沈殿物容器、多核種除去設備の高性能容器に関し、発生量、管理保管施設、ランニングコスト等の詳細検討が必要と考えます。

淡水化装置の逆浸透膜・RO膜はすぐに詰まってしまうので、膜の交換作業性及び被ばく防止等の検討が必要と考えられます。

現在の設備・システムはまだ応急的なものでしかないと考えられます。応急的な仕事は必要ですが、その次の仕事は恒久的なものにしていかなければならず、大変な仕事になると思います。どうか最後は人材ですので、現場をよく知り相当に広い範囲の技術を理解できる現場の技術者・作業者の人材育成になお一層努められることを期待します。